

# 就農10年を振り返って！

——地域活性化を目指して——

アグリパークつがる塾 今 久男

## 1 農業開始

平成18年に農林中央金庫を早期退職して、生まれ育った青森・五所川原で一人農業を開始した。

1年目はトマト・ナス等の野菜をハウスで栽培、2年目は無農薬のコメの生産開始、3年目は80代の亡父の指導を受けてりんご栽培の開始、と少しずつ農業を広げていった。

農業を始めたころは体力に自信があり、夏場は朝6時から夕方7時まで働いていたが、苦勞とは考えなかった。

## 2 加工・販売事業も

6次産業化への転機は偶然の産物である。就農3年目の秋、たまに作るアップルパイを東京の知人に送ったところ、青森県産りんごでアップルパイ事業をやってみては？との誘い。しかも補助事業の書類作成のサポートまでいただいて。

お陰様で補助事業の支援を受けて、全国の売れ筋アップルパイの味と価格の調査と研究を行った。この1年の調査・研究が現在のアップルパイの味の基礎となっている。

ただ、定期的に製造するための販路がないため、製造・販売ともに苦勞の連続。自ら百貨店に出向いて販路開拓を行い、西武百貨店池袋本店・そごう横浜店・東急本店などを開拓するも、正社員雇用までいかず。

## 3 本格的な農の6次産業化へ

4年目以降様々の補助事業に応募して、新商品開発と販路開拓を行い、6年目からようやく正社員雇用が可能となった。

自ら販売を行いながら、併せて販路開拓のための百貨店訪問を行い、名古屋・大阪にも進出。いま思うとよくできたものだと思う。

7年目からは青森県物産協会に入会して催

事も徐々に増え、従業員を増やす必要が出てきた。お陰様で現在は6名の従業員を雇用し、安定している。

## 4 今後の課題と夢

この10年を踏まえて、事業の選択と集中を行うことにした。

まず、堆肥事業の廃止である。理由は経費負担が大きいことと、堆肥が予想以上にできたことにある。現在の在庫量だとあと10年は使えるのではないかと思う。

もう一つの廃止は、無農薬米の栽培である。雑草の処理を従業員に任せているが、予想以上に負荷がかかるためである。

一方で、無農薬野菜と有機栽培りんごはパイの素材として増やしたいと考えている。

特にりんごは地域のりんご農家と一体となって活性化を図れば。

青森のりんご農家も高齢化で廃園が増えているが、りんご農家の所得が増えれば後継者が出るのではないか。良いりんごは生食販売、傷のついたものは加工して付加価値をつける、という単純な発想で収益を上げる計画である。

この事業を行うための課題は6次産業化を拡大させるための資金。これからの5年で知恵を絞って、りんご農家とともに地域活性化を図りたいと考えている。

## 5 最後に(皆様に感謝！)

青森で一人農業を楽しむ予定でいたが、縁あって農の6次産業化を始め現在に至っている。

これも皆様のご声援の賜物と感謝するとともに、この場を借りてお礼を申し上げたい。

そして、青森・五所川原地域活性化のためのご声援をこれからもお願いしたい。

(こん ひさお)